

千葉県・香取市

伊能忠敬記念館

— 一足で日本を測った男 —

山中 稔 元・編集委員

伊能忠敬は、日本で最も名前を知られている人物の一人である。忠敬は隠居後50歳を越えてから測量技術を学び、その後17年間にわたり日本全国各地を測り続けた。その間に歩いた距離は約3万5000kmで、地球一周分に相当する距離である。忠敬によって作成された大日本沿海輿地全図(通称、伊能図)は、その後正確な日本地図として大正時代まで約100年間も利用された。

伊能忠敬記念館は、伊能忠敬の人生を年代順に追いつながら、その業績の結晶である伊能図を紹介するために1998(平成10)年に完成した。近年では年間9万人もの来館があるとのことである。

忠敬は、小学校学習指導要領のなかで、指導上の題材とする歴史上の人物42名の中に含まれており、私も小学校で習った記憶がある。取材時は夏休み期間中であつたために、多くの小学生が保護者とともに見学に来て、熱心にメモを取っていた。

忠敬の歩幅は69cmだつたとされている。取材から帰ってきてからであるが、この歩幅の感覚を実際に職場で試してみた。50歳代半ばの男性(身長170cm)では歩幅83cm、60歳代前半の男性(身長172cm)で歩幅81cmだつた。歩幅から考えると、忠敬は比較的の小柄だつたのではないだろうか。

記念館で取材に対応していただいた学芸員の紺野浩幸氏が、「今は展

Access アクセス

所在地 〒287-0003 千葉県香取市佐原1722-1

電話 0478-54-1118

交通 JR佐原駅より徒歩10分
JR東京駅からJR佐原駅までの高速バスあり
東関東自動車道 佐原・香取ICより15分

開館 9:00～16:30(入館は16:00ごろまで)

休館 月曜(ただし、休日の場合は開館、翌日休館)、国民の祝日の翌日、年末年始

入館料 大人500円、小・中学生250円

URL <http://www.city.katori.lg.jp/museum/>



示していないのですが」と前置きしたうえで、「古市公威」の香典袋を出してくれた。古市はもちろん、土木学会初代会長(1914年～1916年)である。古市の香典袋が包まれた紙には、「大正6年4月13日の忠敬100年忌之節にお供え下されさうろう博士方の包み紙並びに名刺入れ記念に取りおくと書かれている。当時、帝国学士院第二部長であつた古市が、帝国学士院の他のメンバーとともに贈つたのではないかとのことであつた。ちなみに、古市の香典裏書きには、同様に包まれていた4人の香典とはほぼ同じ金額が記載されていた。

記念館のある千葉県香取市佐原は、水郷のまちとして、また、まち並みが関東地区で初めて重要伝統的建造物群保存地区として選定されたことでも広く知られている。佐原の観光シーズンは水生植物が美しい春から夏にかけてのこと。この取材に行つた7月下旬は炎天下ではあつたが、記念館の側を流れる川面の風はとても涼しく感じられた。



重要伝統的建造物群保存地区にある伊能忠敬記念館



記念館から徒歩6分の佐原公園内にある伊能忠敬銅像



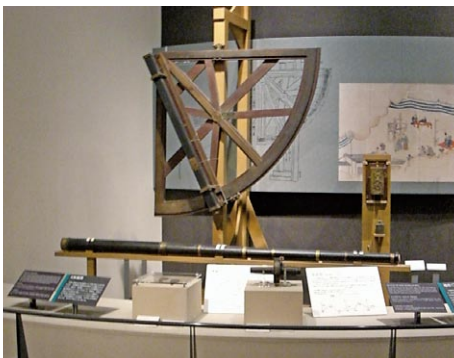
記念館の対岸にある伊能忠敬旧宅



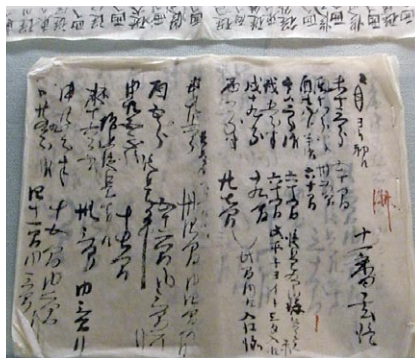
忠敬の業績を示す展示物の数々



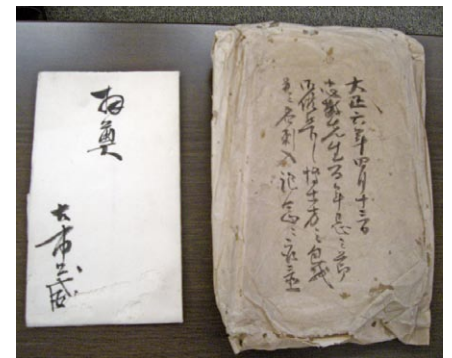
写真奥が日本全体を8枚に分けて書いた地図(中図)



恒星高度の測量器具(上)と望遠鏡(下)



測量隊の野帳、単位は「間」



土木学会初代会長を務めた古市公威の香典袋